

# 都市・地域計画研究室

## 1. はじめに

「都市・地域計画研究室」では、少子高齢社会への転換期を迎えたわが国において、複雑化する都市・地域の問題、地方分権や情報公開などの動向を踏まえ、①広域ブロックの形成・大都市圏整備のあり方、②公共交通を活かした都市づくり、③市民参画型まちづくり、④計画行政ネットワークからのアプローチを主要テーマに、各分野の専門家や研究機関との連携を図りながら、より実践的な調査研究業務に取り組んでいます。

## 2. 本年度の主な調査研究活動

### (1) 広域ブロックの形成・大都市圏整備のあり方からのアプローチ

少子高齢社会を迎える中、広域ブロックや大都市圏における整備・制度のあり方が問われています。

国土形成計画（全国計画）に基づく広域地方計画においては、地域特性分析、連携プロジェクト、計画の実効性とその評価手法など、新たな国づくり・地域づくりについて調査研究を行っています。

また、大都市圏においては、新たな国土計画体系に対応した大都市圏整備方策を検討するため、人口構成の変化に基づく行動特性の見通しや震災時における帰宅困難者対策、広域防災・物流等からみた大規模用地の利用方策など、多角的視点から大都市圏整備のあり方について調査研究を行っています。

### (2) 公共交通を活かした都市づくりからのアプローチ

限られた財政状況の下、持続可能な地域づくり、コンパクトな市街地形成を目指し、土地利用と交通体系のバランスが益々重要になってきています。

特に首都圏郊外部や地方都市においては、公共交通を基軸とした中心市街地の活性化による集約型都市構造の形成が必要であり、そのための戦略的な施策の展開や仕組みづくりについて、具体的な都市を対象に調査提案を行っています。

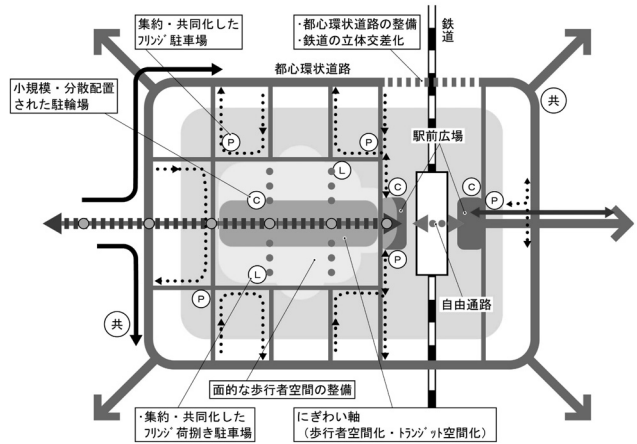


図 拠点的市街地での都市交通施策の展開イメージ  
出典) 都市交通・市街地整備小委員会資料 (IBS 作成)

### (3) 市民参画型まちづくりからのアプローチ

近年、まちづくりに対する市民意識の高まりに伴い、行政や市民の協働によるまちづくりが全国各地で進められています。

しかし、市民や企業の声をかきとるまちづくりに反映していくかは試行錯誤の段階にあり、官と民が協議しながらまちづくりを進めていくプロセス・仕組みづくり、そのためのシナリオづくりについて研究提案を行っています。

### (4) 計画行政ネットワークからのアプローチ

今後の都市・地域づくりにおいては、経営的発想による自治体間の連携・協議・調整が不可欠です。

これまで関与してきた東京都市圏の交通計画協議会や政令指定都市の国際都市計画交流組織推進協議会などでの経験を活かし、広域連携マスタープランの策定や関連事業計画の連携協議、まちづくり支援制度などについて研究提案を行っています。

## 3. 今後の展開

省 CO<sub>2</sub> 型社会への移行や選択と集中の視点から、引き続き地域の実情を踏まえつつ、新たな計画制度の枠組み、地域に合った整備の仕組みについて具体的な提案を行っていきます。